

キーワードから考える  
ことばの学習(1)  
～ことばの初期学習を中心に～

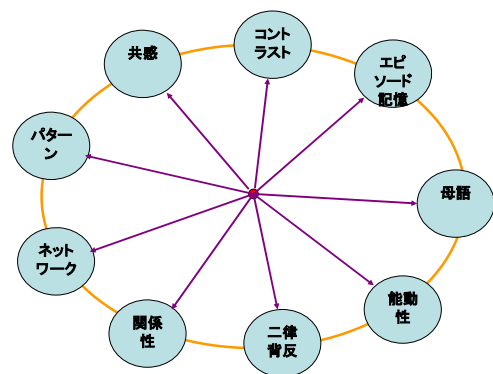
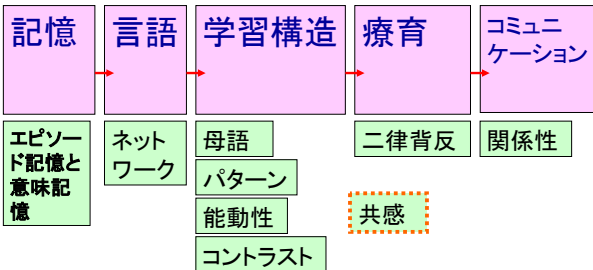
葛西ことばのテーブル  
三好純太

今回のキーワード

共感                      パターン  
二律背反                  能動性  
母語                      スタイル  
洞察                      コントラスト  
ネットワーク              関係性  
エピソード記憶と意味記憶

今日のお話の概要

はじめに



はじめに

キーワード

key word

## キーワード

特別な意味を持つ重要語

\* 漢語・外来語・英語が中心

文化 自由  
法律 経済  
意識 時間

明治時代に人工的に作られた漢語

スタッフ  
ダウンロード  
リフレッシュ

日本語化している外来語

### キーワードの例

## 化石化

fossilization

## 化石化

●ことばの運用や発音における誤りが固定化し、改善しにくくなること



\* 主に、外国語習得での問題として使用される

言語発達上の問題にも適応可能

★「化石化」という用語を使うことで頭がスッキリする。



漢語の力 長い状況説明を集約化(凝集性)  
「誤りが固定化している、間違った癖がついてしまっている」

### キーワードの効用

#### ●命名の意義

複雑なもの・曖昧なもの・抽象的なもの

→名前を与えて、姿を浮かびあがらせる



\* 記憶を呼び起こしやすい \* 知識の整理

#### ●内容の濃密化・複雑化

※その言葉を会話や文の中で、名詞1語として埋めこめる

→ 次の「考え」のための道具

### キーワードの留意点

#### ★更新の必要

知識は日々、変化するもの

→ 「仮称」という気持ちが必要

#### ★拡大解釈・固定観念への留意

×「便利な収納袋」や「分類による終息感」

我田引水・牽強附会にならないように

# 記憶

## エピソード記憶 と 意味記憶

episodic memory      semantic memory

### エピソード記憶

個人的体験や出来事についての記憶

「きのうは、12時まで起きていた」

### 意味記憶

ことばの意味やさまざまな知識

- \* 赤くて丸いくだものは、「りんご」。
- \* 日本で一番高い山は、富士山
- \* 自分の苦手な食べ物は魚介類だ。

### 「朝ごはん、なにを、食べた？」

- 「なっとう」: 正答
- 「ピザ」: 誤答 ①願望 ②連想 ③記憶錯誤
- 「食べた」: ①オウム返し ②理解不完全
- 「わすれちゃった」: 忘却
- 「わかんない」: ①忘却 ②理解不完全  
③言語表現が不能
- 「いいたくない」: ①拒否 ②解答困難

### 解答できない理由 (何が未熟か?)

- ◆ エピソードの記憶力
- ◆ 質問文の理解
  - \* 時制表現の理解/時制の認識 [おひる]
  - \* 疑問詞の理解 [なにを]
  - \* 問いかけ文の理解 [?]
- ◆ 事物の呼称能力/表現レベルの判断力
- ◆ 注意・傾聴能力
- ◆ 思い出そうとする意欲(根気)

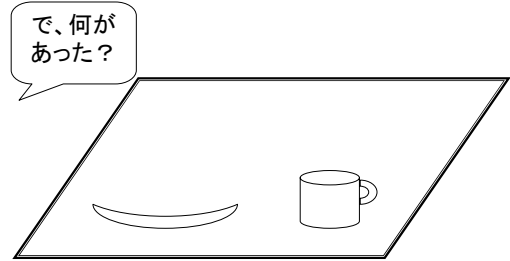
### エピソード想起の誘導方法①

- まず、お盆の絵を描き、「何があった？」と聞く
- 「何があったかな」と聞きながら、指を折る  
→ 枠組み(フォルダー)の利用
- 昼食時に撮った写真・昼食時に書いたメニューの紙を裏返して「何だった？」と聞く  
→ 枠組みの利用/リハーサルの利用
- 献立表丸暗記 → 他のルートからの暗記

### エピソード想起の誘導方法②

- 食べたもののひとつを挙げ、「あとは？」と聞く
  - 食べた場所や時間などを示す
  - 「となりに誰がいた？」「何使った？」など手がかりとなるものの想起を促す  
→連想・状況の手がかりからの探索
- 料理の絵カードを示して、この中にあるか聞く
  - 料理名を挙げて、yes-noで答えてもらう  
→再認を用いた想起

### 誘導の例：食事の枠



しかし・・・

うまく行かないことも多い



記憶に関する、**基本的な能力の未熟さ**

### 昨日の昼ごはんの想起

手がかりを探す

- \* 昨日は何曜日だったか？
- \* だれと一緒に食べに行く日だったかな？
- \* 近所には、どんなお店があったか？
- \* 最近、自分は、何が好きだったか？

これらはすべて「意味記憶」



意味記憶を動員して、エピソードを探索している

### エピソード記憶の再生のためには

**豊かな意味記憶の存在が不可欠**

個人的な過去の経験であっても、その想起のためには、意味記憶(知識)が必要

- 知識：①社会的知識：値段は700円～800円  
②自己に関する知識：習慣・スケジュール  
③連想：ランチ・・・ランチタイム・・・コーヒー

### エピソードを語れるようになるためには

- \* 自分や他者についての洞察を高める
- \* 社会的知識を高める
- \* 関心のある領域を広げる

エピソードの再生が上手な子がいる 要因は？  
? 疑問詞の理解が良い／疑問詞の存在を知っている  
? 他者の行動や行為(ex. 食事)への関心が高い  
? 時間(もしくは時制表現)の認識が良い

しかし、何よりも重要なのは・・・

意味記憶の基礎＝ことばの世界

ことばの習得



●ことばのネットワーク化  
複雑に繋がった「ことば」の網を作る

言語

ネットワーク

network

(ことばの)ネットワーク

ことばと、ことばを結ぶ関係性

ことばの学習の目的

学習の中で練習した語彙や文を  
覚えることが目的ではない



日常場面での自然習得を促すメカニズムを作る

名詞習得の場合

今井むつみ・針生悦子著

## 「レキシコンの構築」

レキシコン: 心の中のことばの辞書

### ◆ 名詞の学習

#### マッピング

ことばと意味(事物・動き・性質...)を対応づけること



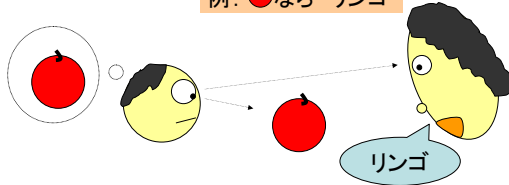
事物名詞 = 即時マッピングされる

※ たった1回の経験で名前を学習する



### ◆ 名詞の学習

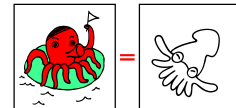
子どもは、モノに対して与えられたことばを、そのモノの**基礎カテゴリー**の概念を指すものとして把握する  
例: なら リンゴ



あか まるい へた

くだもの  
このようなものを指しているとは思わない

### 名詞の習得: 「イカ」の場合



### 「タコ」の属性①: 「イカ」習得前の知識

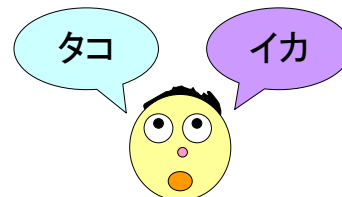
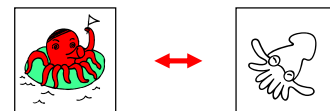
形: 頭があって足がたくさん

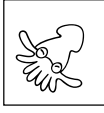
様態: グニャグニャ

カテゴリー: 海の生きもの



### 「イカ」の習得





これは、イカ

タコではない

タコの部分否定

### タコとイカの属性の比較

タコ		イカ
形:頭が丸い	×	形:頭が三角
グニャグニャ	○	グニャグニャ
足が多い 足の数:8本	○~×	足が多い 足の数:10本
赤	×	白
海の生きもの	○	海の生きもの

### タコの属性②:「イカ」習得後の変化

形:頭があって足がたくさん 様態:グニャグニャ カテゴリー:海の生きもの	→	形(頭が○) グニャグニャ 足の数:8本 色:赤 海の生きもの
--	---	---

イカを覚えることによってタコの理解が精密化

### 「イカ」習得の意義

- ① 既得の語彙の精密化  
「イカ」を知る → 「タコ」の概念が変化(精密化)  
→より正しい「タコ」に!
- ② 概念形成能力の向上  
足が多い生きものにもいろいろいるんだな!
- ③ 上位概念の形成  
「イカ」「タコ」「アジ」「ヒラメ」→【魚】【海の生物】
- ④ 連想の拡大  
寿司の「イカ」・・・「スイカ」「カイとイカ」・・・「海と川」

### 「イカ」とことば全体の関係①


#### 概念形成の能力向上

(おなじような形でも、いろんなものがあるんだなあ)

↓

「ちやわん」と「おさら」のちがいに注目

平べったいのが「おさら」で、少し深いのが「ちやわん」



ほかのことば(概念)の精密化への応用

### 「イカ」とことば全体の関係②

#### 上位概念の形成促進

「イカ」「タコ」・・・「フグ」「マンボウ」=要素増大

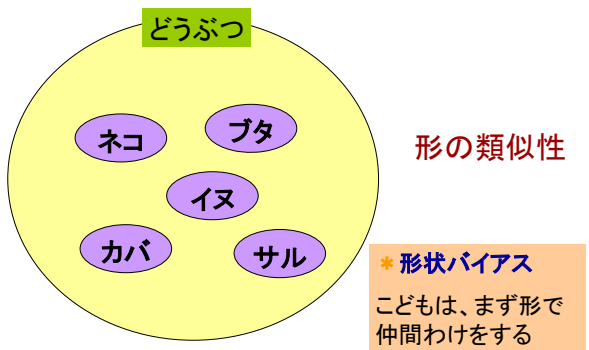
→ 共通性への注目

↓

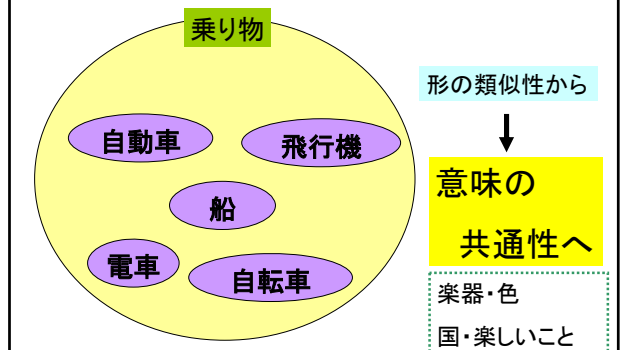
どれも海(水中)の生きもの

「魚」「海の生物」・・・という上位概念の形成を促進

### カテゴリー概念の形成①



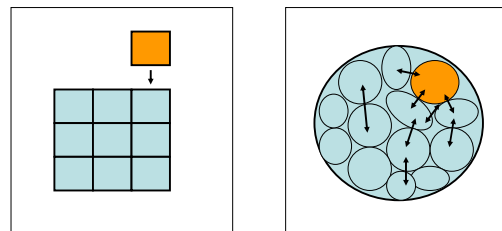
### カテゴリー概念の形成②



ひとつの言葉を得ることは、  
それまで作り上げてきた自分の  
言葉の世界全体を塗り変える

### 新しいことばの習得

頭の中のことばの地図  
(レキシコン)



+1 ではなく、地図がまったく新しく書きさされる

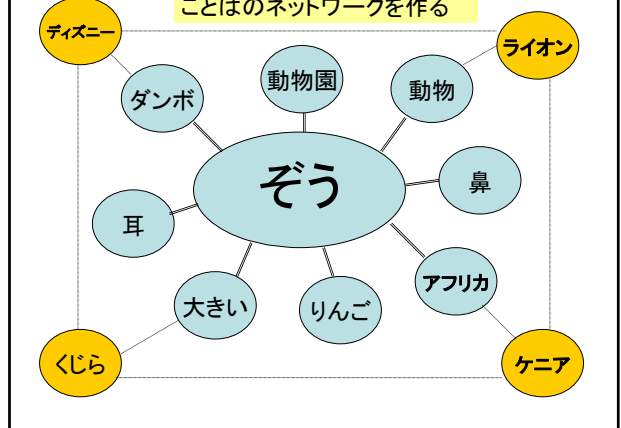
### 「タコ」「イカ」関係



大切なのは、捕った  
魚ではなく、網



### ことばのネットワークを作る

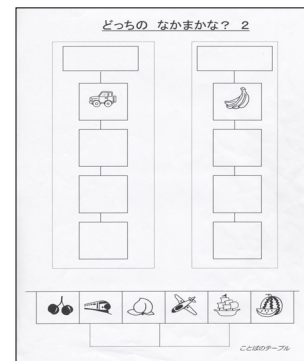




## ことばのネットワークを作るには・・

- ◆ 日常生活の中で
  - \* 関連する事柄を話題化・言語化
  - \* 経験の蓄積
  - \* 架空世界に触れる(絵本・物語・・・)
- ◆ ことばの学習として
  - \* 類推のトレーニング(共通点・相違点の抽出)
  - \* カテゴリー分類・名称の学習

## なかまわけ課題



## ことばの学習の目的

学習の中で練習した語彙や文を覚えることが目的ではない



日常場面での自然習得を促すメカニズムを作る



ことばや知識を増やす法則(メタ知識)を獲得させる

※1を聞いて10を知る

## 学習構造

## 母語

mother tongue

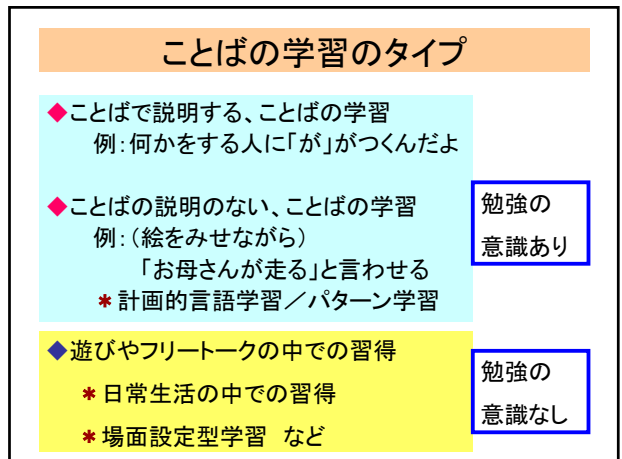
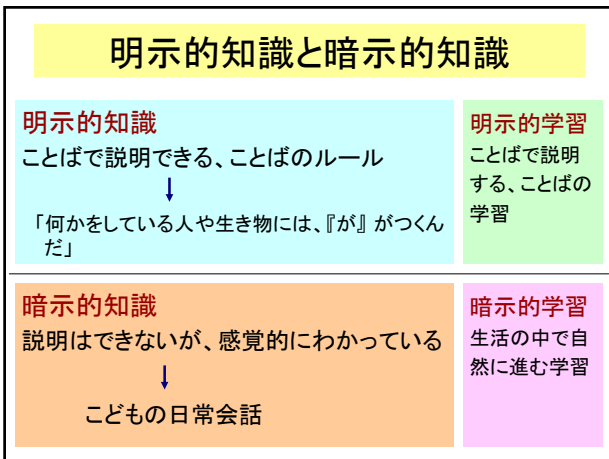
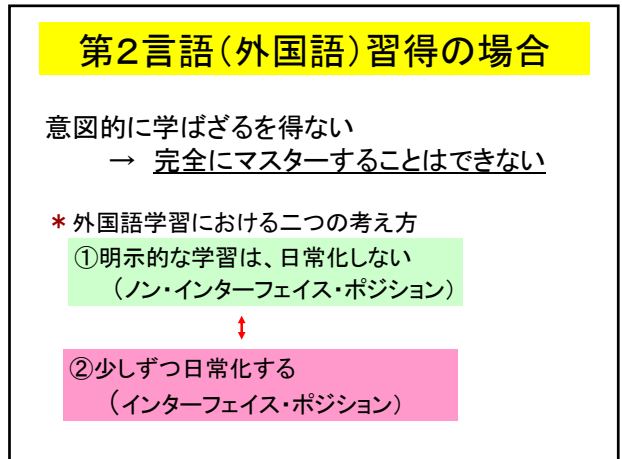
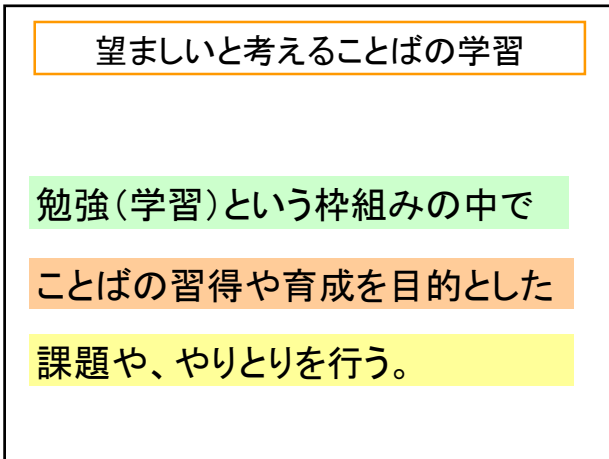
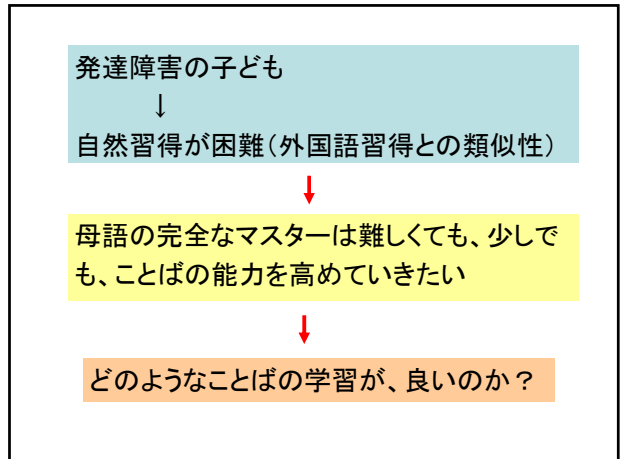
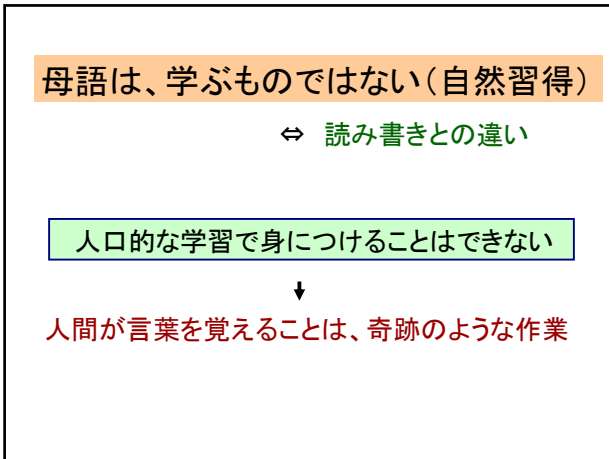
## 母語とは

子どもが最初に習得する言語

人間は、だれでも、ことばを、ひとつだけマスターする能力を持っている。



- \* 生後8か月で、母語以外の言語音の聞き分けができなくなる



## 言語指導の二律背反

ことばの学習

人工的な学習

母語は習得できない

完全にマスターすることはできない

しかし、子どもは、勉強をしている、という意識はあっても  
ことばを学んでいる、という意識は、ないことが多い

### 暗示的学習

生活の中でのことばの  
習得に近い状況

★言語に対する構え・不安  
のなさが必要

おべん  
きょう！

いま、  
なに  
してる？



## 望ましいと考えることばの学習

計画した学習課題や、やりとりの中で、  
日常生活以外の言語刺激に触れ、言語習得  
を促す機会とする

- \* あくまで「学習」という枠組みを維持する。
- \* しかし、ことばについては心理的圧迫のない  
状況があり、その状況の中に、言語学習のプ  
ログラムが埋め込まれている。

勉強している

学習者

学習概念の形成  
課題態度の形成  
学習耐性の向上

先生

ことばを覚えなきゃ・・・  
ことばを間違わないよう

情意フィル  
ターによる  
能力の低下

ことばによ  
る説明

★ 学習者の一定水準以上の能力から有効

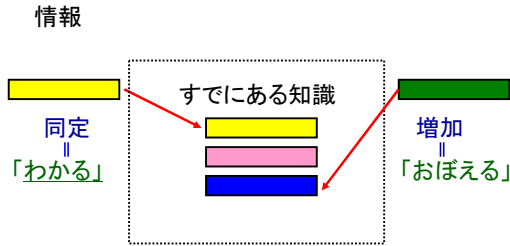
パターン  
pattern

## パターン

情報を、すでにある知識と照合して認識すること

そのようにして得られた知識

## 旧知識と新知識



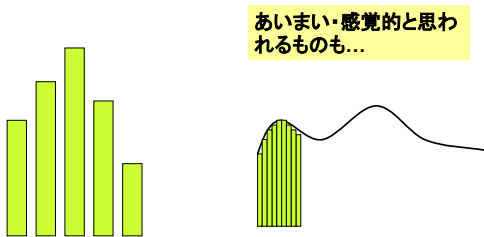
## レイ・ジャッケンドフ「心のパターン」

人間は、パターンの獲得により学習を進める

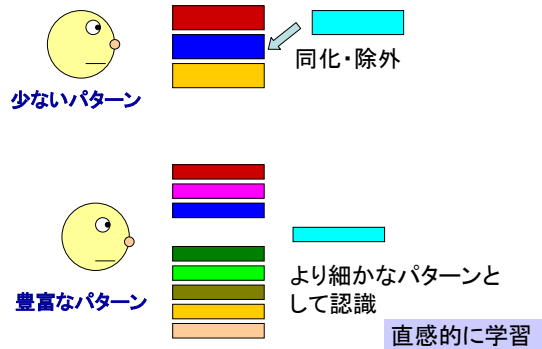
音楽・美術・運動・・・

すべての経験は、パターンの学習により高度化

## デジタルとアナログ



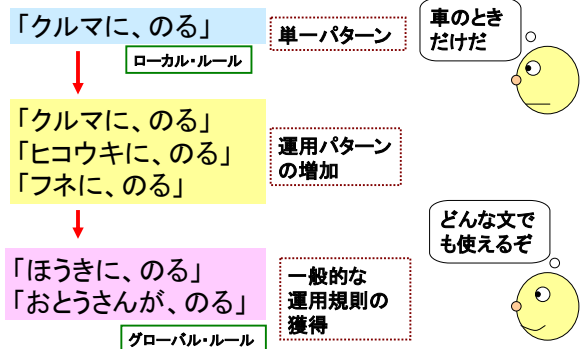
## パターンの蓄積



## ことばの習得におけるパターン

- ◎ 事物名詞  
= 即時マッピング (1回の経験で覚えられる)
- ◎ 動詞・形容詞・文法 (助詞・動詞活用) は困難  
↓  
経験の積み重ねから、類推して習得  
(パターンの蓄積)

## 動詞「のる」の習得



## 「パターン」ということばの持つ意味

- ①原型・模倣 / 倣って作る
  - ※自閉症＝パターン依存(型通り:同じことを繰り返す)
  - ・新しいパターンの産生が困難
- ②模倣する・まねることにより、生み出されたもの

## パターン学習


同じ型(構造)のものを、例にならって、やってみることに  
よって、新しいパターンを作り出す


## パターン学習の例


### ◆連語練習ワーク


連語練習 2 ( 月 日 )

なに(に)のる? ( 月 日 )

   のる

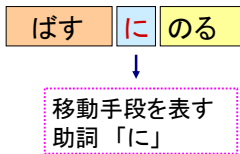
   のる

   のる

   のる


©2009-2010 ことばの工房


### ◆連語練習ワーク





連語練習 2 ( 月 日 )

なに(に)のる? ( 月 日 )

   のる

   のる

   のる

   のる

©2009-2010 ことばの工房

## ◎ 連語練習ワークの意義

- 文構造における助詞の適用  
 に のる  
 こういうときは「に」だ..
- いろいろな目的語に対しての動詞の適用  
 → 動詞連結の一般化  
 船にも飛行機にも「のる」だ..
- テーマとなる文構造と合致した文の産生  
 のるものを、書かなきゃ..

## 各テーマのパターン


～に のる


## 学習構造のパターン


- 「名詞+助詞」
- 最後に絵を描く etc


連語練習 7 ( 月 日 )

なに(に)のる? ( 月 日 )

   のる


   のる


   のる


   のる


連語練習 8 ( 月 日 )

なに(に)のむ? ( 月 日 )

   のむ


   のむ


   のむ


   のむ


連語練習 9 ( 月 日 )

なに(に)たべる? ( 月 日 )

   たべる

   たべる

   たべる

   たべる

©2009-2010 ことばの工房

## パターン学習の意義

- 課題構造の洞察 → 抽象的思考力の向上

- 繰り返しの中で、直観されてくる内容  
 (ことばの規則)

(ここには、モノの名前が入るんだな...)  
 (ここには、動きのことばが入るんだな...)  
 (ここには何か、意味のない短い音が入る...)

形式から内容へ

## 心のパターンを豊かにするためには

### ● 毎日の生活の中では・・・

#### さまざまなパターンに触れる

より多くのパターンを経験することにより、それぞれの違いや、その世界の広がり意識する

### ● 学習においては・・・

#### いろいろな種類の学習をする

内容のいろいろ 課題構造のいろいろ

## パターンの多様化(高度化)を支えるもの

### ◆ 対象に対する興味・関心

\* 高い能動性(志向性)

\* ことばの場合 → コミュニケーション意欲  
他者の存在や活動への注目

### ◆ 比較・類推の能力

どこに違いがあるか／どのような関係があるか

## 能動性 activity

## 能動性 activity

はっきりとした意思や意図を持って、  
物事に向かっていくこと

## 「能動性」ということばの解釈 ①

自発的に行動する

自由に行動する

自分から他者に働きかける

積極的・・・のよう  
なイメージ？

⇔ 受身的

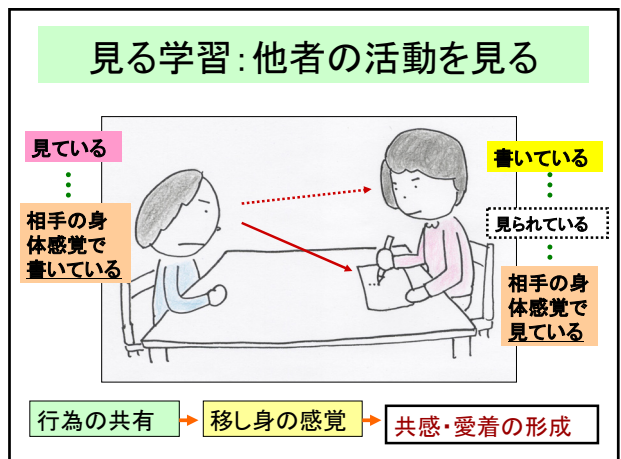
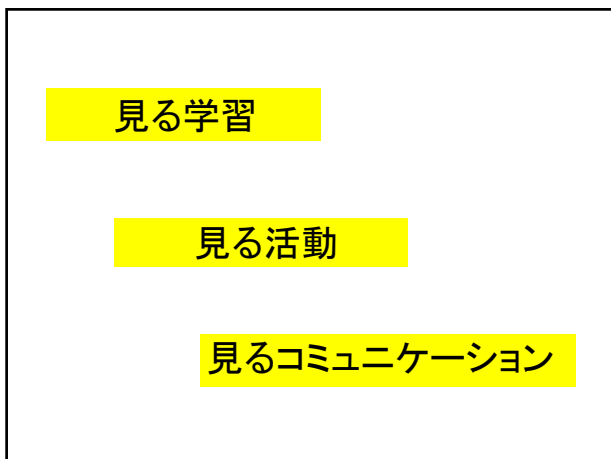
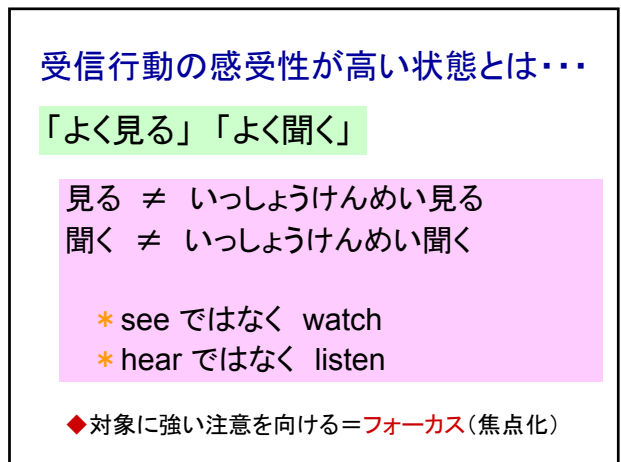
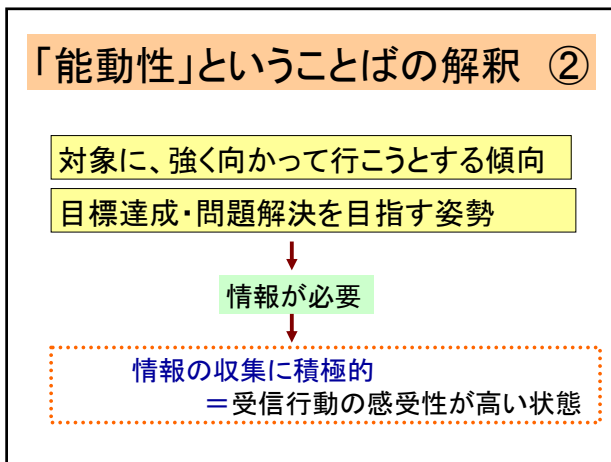
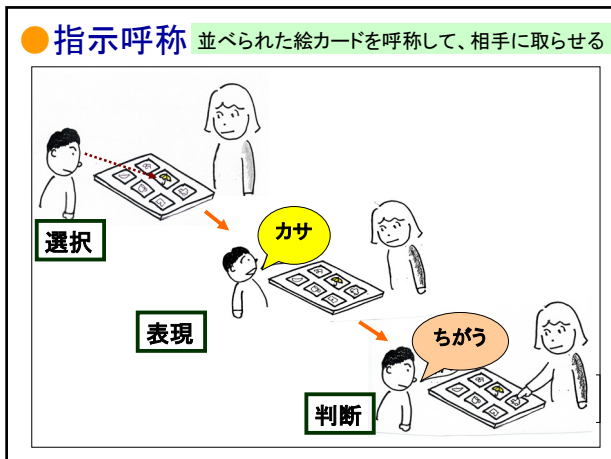


## 能動性を高めるための学習課題

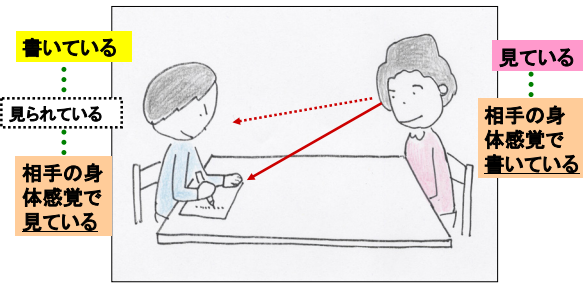
### ■ 指示課題

● 指示呼称

● 探索呼称



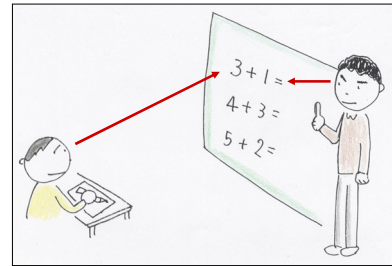
### 見るコミュニケーション：他者から見られる



共感・愛着の形成

見守られていることによる助力

### 見るコミュニケーション：ともに見る



ともに目的に向かって進んでいる

目的共有の大切さ

共になにかをしている、と感じる ★目的



## コントラスト

### コントラスト(対比・対照)

違いの大きなもの・相反するものが、同時に示されることにより、それぞれが学習しやすくなる



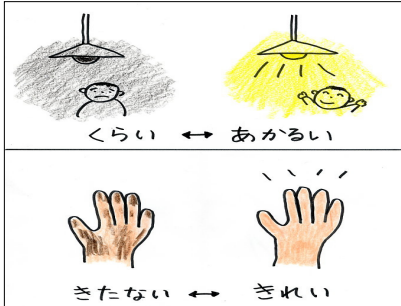
### 学習におけるコントラスト

- 記憶効果を高める呈示方法
- 形容詞・動詞学習に重要



## 形容詞の学習におけるコントラスト

### ◆ 反対語の学習



## 形容詞や動詞の特質

習得のためには、比較・類推の能力が必要

◎形容詞 ≠ 即時マッピング

↓  
それぞれの性質の違いに、気づき

↓  
ことばの意味を類推して習得しなければならない

相違点・類似点の抽出

## 意味の推測を促すもの

### ① 文脈の手がかり

\* 既知のものに対して、言われたことば  
「りんご」のことじゃないな...

あかい



### ② 文法の手がかり

\* 各品詞らしさ \* 文中の位置  
・形容詞:「～い」 ・動詞:ウ列音で終わる  
・語尾の活用 ・形容詞は名詞の前につく

### ③ 違いの大きさ

## ③ 違いの大きさ・明確さ

### ● 違いの大きさ

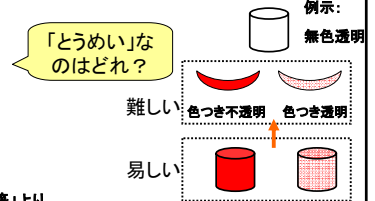
\* 違いの大きな比較 \* 違いの小さな比較

学習が容易



### ● 違いの明確さ

「とうめい」という性質の学習例

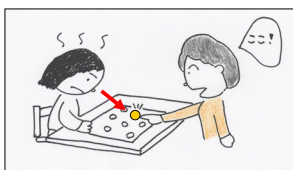


今井むつみ他「レキシコンの構築」より

## 違いに対する気づき・注目



**フォーカス**  
焦点をあてる



## 語彙に応じたコントラストの工夫

### ● 比較語

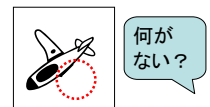
\* 性質(属性)の反対性  
明るいー暗い 上ー下

### ● 動詞

\* 方向の反対性  
開けるー閉める あげるーもらう

### ● 名詞

\* 名称部分への注目



# 療育

# 二律背反 antinomy

## 二律背反

相反するものが同時に存在する

両義性

アンビバレント

一匹オオカミの大群  
少し上ってる下り坂  
小さい大男

形容矛盾

両刃の剣

両義的意味  
(二面性)

愛憎

アンビバレント  
相反する感情・認識

## 吃音の場合

★治療における二律背反

吃音を治そうとする努力 ⇔ 吃音の受容

↓  
吃音に対する意識化  
↓  
コンプレックス増大  
↓  
悪化のリスク

## 治療の方向性

吃音を治そうと  
する前向きな  
姿勢

吃音を受容し、  
自己の価値観を  
他に求めていく  
姿勢

あきらめず、こだわらず

治療者

吃音の人

## ことばの学習における二律背反①

### 発達障害の子ども

ことば(母語)は、学ぶものではない



ことば(母語)を、学ばなければならない

### 療育者

ことば(母語)は、教えるものではない



ことば(母語)を、教えるなければならない

効果？

## ことばの学習における二律背反②

### 学習プログラム

i+1 が基本



情意フィルター

現状能力の、ひとつだけ上の段階のものを学習する

能力ぎりぎりのものは、心理的負担大

しかし…

## 二律背反は人間に根源的なもの

人間の生活そのものが、さまざまな二律背反や両義性に満ちている

絶対的な、正誤や良悪を判断できることは少ない。

反転図形

図と地の関係



見方によって違って見える

## コミュニケーションにおける両義性

おかあさんは、ポチが、おなかがすいていると、思っている…

おなかがすいているのかな

ポチが鳴ってたよ

つねに他者の視点や意図を共有しながらコミュニケーションしている

## ★二律背反に対する態度

相反するものの許容

\* 双極に振れない

双方向的な物の見方

いい加減なまじめさ

信じていない確信

## コミュニケーション

# 関係性

# 関係性

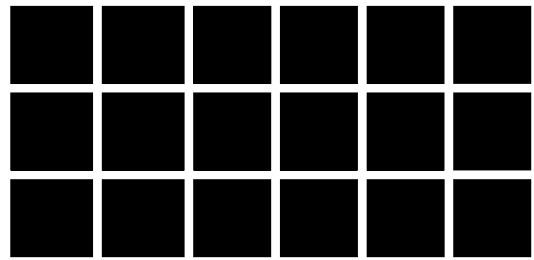
何か と 何か のつながりかた



間

二律背反

ネットワーク



能動性

共感

## 【参考・引用図書】

- 「レキシコンの構築」 大修館書店
- 「心のパターン」 松柏社
- 「心の生得性」 共立出版
- 「子どもたちの言語獲得」 大修館書店
- 「こころを生み出す脳のシステム」 NHKブックス
- 「からだ: 認識の原点」 東京大学出版
- 「はじめての日本語教育」 凡人社
- 「ことばの発達と障害」 大修館書店
- 「かの蒼空に」 双葉文庫

